

第 34 回

国内最古の警察署建築(初代松江警察署)発見のとき

平成 26 年 1 月 6 日、市教育委員会の仕事始め式の後だった。廊下で文化財課長から呼びとめられ、話は、昨年暮れに松江市雑賀町在住の副教育長宅に建物解体工事の案内があり、古い建物なので確認しておくようにこの指示があったという。課長は正月 3 日に外観を見に行き、学校だったらしいが明日には取り壊しに入るので一緒に見に行ってほしいとのことだった。

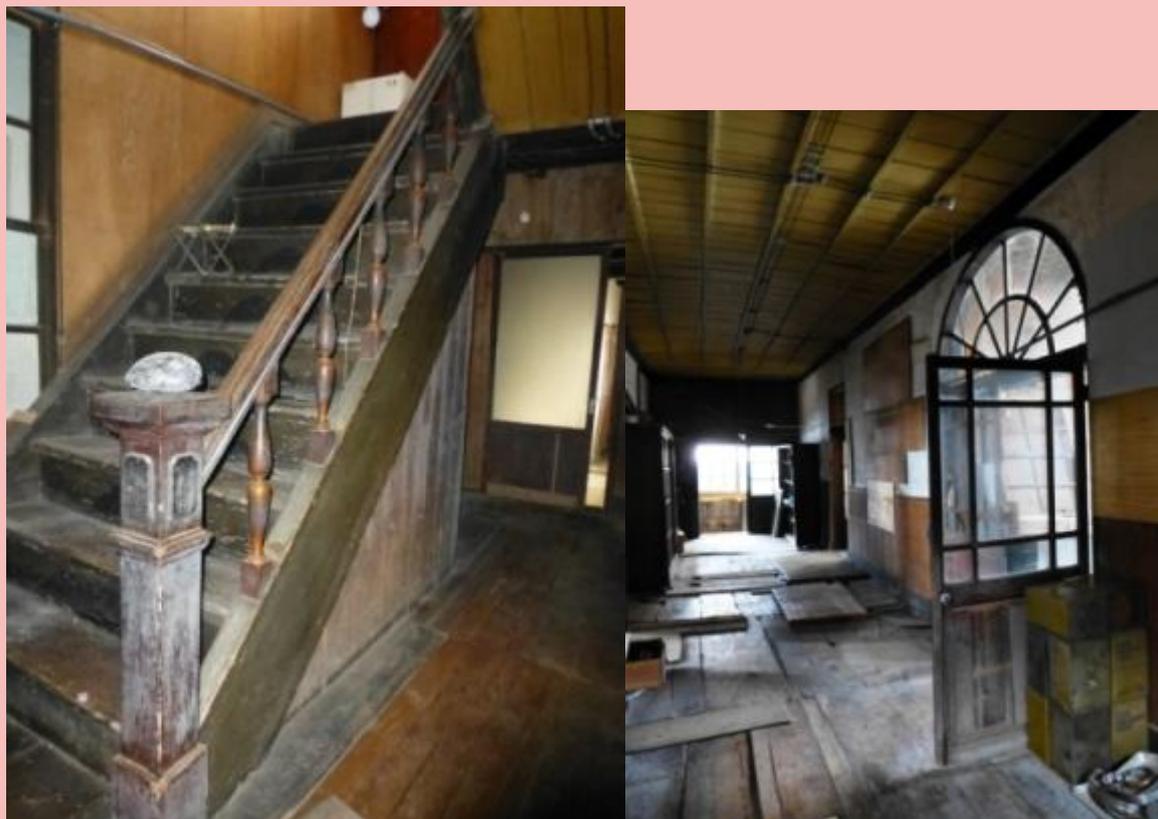
同日 11 時に雑賀公民館前に集合することとし、史料編纂室で近現代史担当の沼本専門調査員に「雑賀町の古い学校建物」について調べるよう電話依頼した(この時点では私塾跡などが想定された)。文化財課 3 名と私とで公民館前から雑賀町 5 丁目の建物脇駐車場に移動し、その時点で、古い建物とは旧雑賀幼稚園で後に北辰堂という線香工場になった建物と分かった。が、件の建物外観を見る限り重厚な二階建ての建物で、幼稚園舎としてはふさわしくない建物というのが第一印象だった。

旧雑賀幼稚園・旧北辰堂



建物中に入ると、廃屋のたたずまいに線香工場や旧所有者の荷物が足の踏み場もないように雑然と置かれていたものの、驚いたことに一階北向きに元の玄関らしき施設があり、そこには興雲閣と同じデザインのアーチ形窓枠が残っていた。

階段手すりも興雲閣と類似し、壁面や天井、柱材などに残る塗料の色も興雲閣の古い時期の塗料と似た薄緑色である。天井は一樣に高く、階段の幅はあまり広くはないが一段一段の段差は 30cm 近くあり、二階建てということも相まって、とても幼稚園舎として建てたものには見えなかった。幸い、旧所有者で北辰堂の御主人大沢和正氏が片づけにおいでだったので、建物の来歴を根掘り葉掘り聞いてみた。最初は幼稚園と聞いているという話だったが、そのうち、「亡くなった親父から警察だったと聞いた。大橋の北にあったと聞いた。」という言葉がとび出したのである。すぐに、編纂室沼本調査員には旧雑賀幼稚園と古い警察署建物の写真ということで再度調査を依頼し、その場を引き上げた。公民館までの移動中、「興雲閣より古いのでは」という興雲閣に詳しい職員の感想も印象的だった。



編纂室に帰ると内田主任編纂官から、古い警察署については『島根県警察史・明治大正編』に載っているのではとのアドバイスを受け、すぐに執筆者で旧知の青山侑市氏に連絡すると、資料をもっておいでいただけるとのこと。翌7日の昼過ぎ、米子市在住の青山氏は『島根県警察史・明治大正編』(1978年)の抜粋と、松江警察署編の『庁舎は語る 松江警察署発足 110周年記念誌』(1988年)を携えて、わざわざ編纂室までおいでになり、丁寧な説明をして頂いた。この資料に掲載された関係記述・文献史料・写真や初代松江警察署の正面写真(松江歴史館保管)などにより、旧雑賀幼稚園(旧北辰堂)は明治13年(1938)11月1日から使用された(事務執行開始)初代松江警察署が移築復元されたものと特定できた。

殿町にあった初代松江警察署



この時点(1月7日午後)で、副教育長、市文化財課3名、和田嘉宥先生、足立正智先生に関連資料と下記のメールを送り、「初代松江警察署建築」との所見を発信したのである。(和田、足立両先生には諸資料と建造物から初代松江警察署建築であると改めて認定いただいた。所有者には文化財調査、図面作成を行うこと、また初代松江警察署であることを説明し、調査協力の御好意をいただいた。初代松江警察署の建設時期は沼本調査員により、「明治13年6月20日着工、同年10月25日落成」(県治要領:県公文書センター保管)と確認できた)

(1月7日発信メール 2014/01/07 13:43:56)

北辰堂の近代建造物について、松江警察署関係の資料から次のことが確認できました。

- 1.明治11～「松江警察署新築許可願」提出・・・それまで県庁内の一角にあったが手狭になったため、独立署の建設を願う
- 2.明治13年11月 松江市殿町2番地に木造二階建ての「松江警察署庁舎」が建設される
- 3.大正6年3月 明治13年に建築された庁舎が老朽化したため、同所に木造2階建ての新庁舎が建設される(遠景・近景写真あり)
- 4.大正6年9月までに 雑賀町五丁目の一丁目(後の北辰堂)に移転する(開園当時の写真あり)

とりあえず手元の資料から所見を纏めると、伝承と古写真を見る限り北辰堂の近代建造物は、明治13年11月建築の「松江警察署庁舎」と考えられる。幼稚園舎転用のいきさつは今のところ分からないが、松江警察署の建て替へと、雑賀町五丁目での雑賀幼稚園開設はほぼ重なる。よく知られる2代目県庁は明治12年2月建設であるが、当時の状況からすれば「松村団次」ら島根県庁の技師が設計に携わった可能性がある。よって、北辰堂の近代建

造物は明治 10 年前後に県庁技師らの設計により殿町周辺に建てられた官庁建築の一つではないかと考えられる。(そういう意味では、現時点で、松江に残る唯一の明治初期の疑洋風建築による官庁建物・・・実は大変貴重)

さて、以上のことは松江市史料編纂室が初代松江警察署発見に関わったという単純なおめでたい話ではない。この後、マスコミも地元雑賀公民館周辺から情報を得たらしく(公民館では旧雑賀幼稚園の情報をネット紹介するなど、地元情報に精通し、地域の歴史や文化財の保存に関心が深いようだ)、1 月 16 日を最初に、初代松江警察署(旧雑賀幼稚園、旧北辰堂)をめぐる新聞報道が続き、ネット上でも情報が飛び交い、公民館や全国の研究者からも情報が交わされ続けていった。ついに同月 20 日には島根史学会(井上寛司会長)から、翌 21 日には島根県建築士会(足立正智会長)など 4 団体から、松江市と松江市教育委員会に対し保存要望書が提出された。編纂室とは一線を画す研究者・専門家団体の要望書とはいえ、松江市史編纂事業にかかわりの深い先生方も参加しての御意見である。板挟みの複雑な状況が続いた。1 月 25 日には、国内最古の警察署建築と新聞報道され、同時に市史編纂委員でもある引野道生氏による新聞コラム(明窓:山陰中央新報社)に、「それにしても松江市教育委員会はこれまで、何をしていたのかという疑問が膨らむ。市内の歴史的な建造物を調べて評価し、貴重な物は所有者の理解を得て保存を目指す。そうした日々の取り組みが足りなかったから、対応が後手に回ったのだろう」という痛烈な松江市の文化財行政批評が寄せられた。

引野氏の批判は、松江市の文化財行政に関わるものとしてとても耳が痛いですが、市史編纂事業を進めていく中で気づいた意外なことと重なる。それは、地域の歴史を知る上で欠かせない、「城下町松江」の実態について、あまり調査と研究が進められていないという現状である。開府以来、約 400 年にわたって、出雲地域、島根県の政治的中核施設が置かれた「松江城下町」内には、各種文献史料、絵図・地図、建造物、美術工芸品、民俗資料、考古学資料、写真・映像・新聞などが他地域に比べて圧倒的に多数残されている。地域の歴史を明らかにし、地域の未来への道筋を見つけていく上でも、多くの学問分野の方々と基礎的で悉皆的な調査を行い、「松江城下町研究」を進めていく必要を痛感している。

国内最古の警察署が解体直前になってようやく第一級の建造物資料と判明した痛恨事をふまえても、現在、松江市史料編纂室で取り組んでいる江戸時代以降の莫大な史料の調査と整理は、松江市史編纂事業の 10 年間(これからの 5 年間)だけで簡単に終わるものではない。これまでの誰かが悪いと言っても問題は解決しない。“松江市がまちづくりに歴史文化遺産を生かす姿勢を示す”ためにも、松江市史編纂事業の経験を活かしつつ、長期的に松江歴史館、行政関係機関などと共に作業を進めていくことが必要と考える所以である。

初代松江警察署(旧雑賀幼稚園、旧北辰堂)の取り扱いについては、1 月 29 日、松江市長が声明を出し、松江市が復元を念頭に置いた解体と部材の保管を行うことで、保存の措置が図られることとなった。